

感染拡大防止のために

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでとは違った働き方や環境づくりに苦労されているものと思います。従業員が感染すると、周囲のたたも自宅待機となることもあり、会社の生産性も低下する…という事態になります。

これを避けるためには職場内の対策を講じる必要があります。

すでに皆様、通勤や勤務形態の変更、環境整備など職場での感染予防対策をとられていることと思いますが、企業・事業所の皆様に感染予防対策をきちんととっていただくことで、二次感染、三次感染を防ぎ、地域への感染拡大防止につながります。今一度ご確認ください。今後も引き続き、ご協力いただきますようお願いいたします。

日頃から感染対策を

日頃から手洗いや手指消毒を徹底し、マスクなどの感染予防対策を講じましょう。

また万が一感染したり感染者の接触者となった時のために、外勤や出張時には、時間、経路、訪問場所、面会者を記録しておくのもしもいかもしれません。

不確かな情報をもとに、嫌がらせやSNS上での誹謗中傷などを行わないよう、関係者に理解してもらいましょう



オフィス環境

座席は、対面の配置を避け可能な限り対角上に設置、または横並び。アクリル板なども活用し、ない場合は2m以上の距離を確保するのがのぞましい。

基本は手洗い

手指消毒は一時的なものであり、基本は石鹸を用いて十分に手洗いをする必要がある。始業時、休憩後などの手洗いを励行し、手指消毒も設置する。



換気・加湿

1時間に2回以上換気をする。機械換気の場合は窓を開放しなくてもよい。

加湿が感染拡大防止に有効であるので湿度を40~70%確保する。

職場の感染対策



休憩スペース

食堂や休憩スペースでは、マスクをはずすため感染リスクが高くなる。

共有テーブルなどは定期的に消毒し、一定数以上の人が同時に使用しないよう人数制限や休憩時間をずらすなどの工夫が必要。

参考：「オフィスにおける新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」一般社団法人 日本経済団体連合会 2020年12月1日改訂

5

居場所の切り替わり

仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まる可能性がある。

4

狭い空間での共同生活

狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。

3

マスクなしでの会話

マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。車やバスで移動する際の中中でも注意が必要。

2

大人数や長時間の飲食

長時間に及ぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事と比べて感染リスクが高まる。大人数(5人以上)では、大声になり飛沫が飛びやすくなる。

1

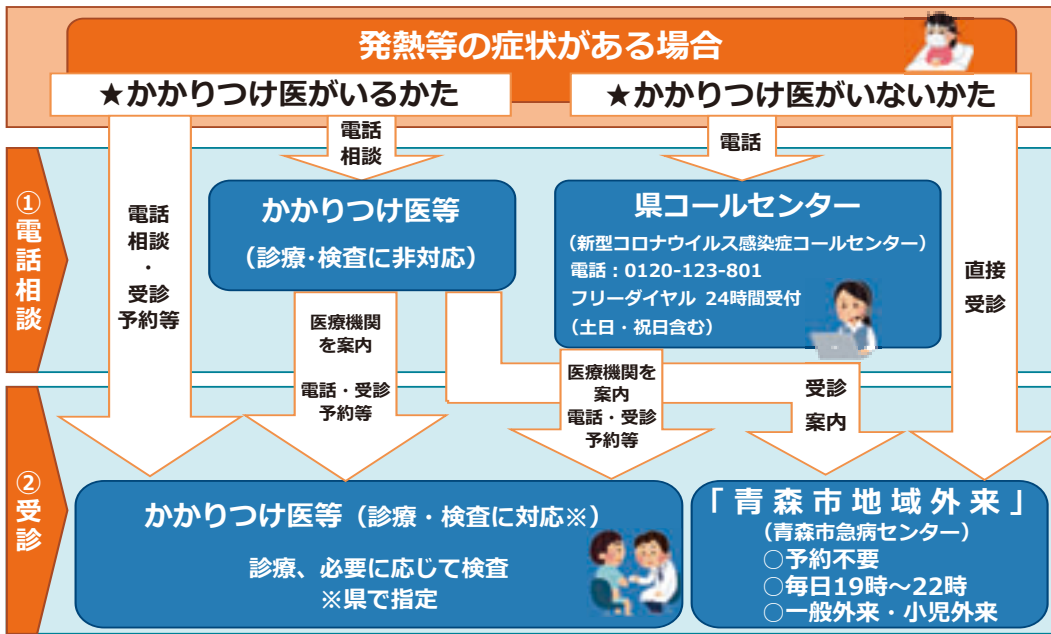
飲酒を伴う懇親会

飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下。また、睡覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。回し飲みや箸などの共用に注意。

感染リスクが高まる5つの場面



(内閣官房 感染リスクが高まる「5つの場面」ポスターより)



日頃から従業員自身が体調を確認し、発熱等の症状が出た場合には、必要に応じ、自宅療養及び左記を参考に医療機関を受診し、医師の指示に従いましょう。医師の指示により検査を行い、新型コロナウイルスへの感染が判明した場合、保健所で疫学調査を実施します。

従業員に発熱等の症状が出たら？

従業員の感染が判明したら？

従業員の感染が判明した場合、保健所では、その従業員から、症状経過や行動歴等の聴き取りを行い、接触者の特定を行います。

その際には、職場にもご連絡し、接触者リストや座席配置図等、接触者の特定に必要な資料の作成及び提供を依頼することがありますので、調査へのご協力を願います。

接触状況を確認し、保健所で検査が必要と判断したかたには、受診調整を行い、帰国者・接触者外来での検査をご案内します。

検査結果が陰性の場合でも、接触状況から濃厚接触者と判断されたかたには、感染者との最終接触日の翌日から14日間の健康観察を行い、その間の自宅待機をお願いすることとなります。

また、職場の消毒に関しては、必要に応じて、事業者の責任で実施することとなります。

【接触者リスト】

接触者の氏名(ふりがな)・住所・生年月日(年齢)・電話番号・現在の症状・基礎疾患・接触状況(接触日・内容・距離・時間・マスクの有無及び種類)等を記載 ※保健所から様式送付

従業員の職場復帰の目安、職場の消毒方法等については、日本渡航医学会・日本産業衛生学会作成の「職域のための新型コロナウイルス感染症対策ガイド」をご覧ください。

※日本産業衛生学会作成のホームページから閲覧可能です。



認定企業に聞きました！ 企業の実践・アイデア

感染症対策編

「コロナ禍での感染症対策」

- ・ 時間差での昼休みの取得・食事スペースの分散
- ・ コロナに関する情報を全社員で共有
- ・ トイレ等に手拭きを置かず、個人での手拭きの用意またはペーパータオルでの対応
- ・ 全入館者に対する入館者記録と検温、手指消毒、マスク着用の徹底
- ・ 来社のかたには別室で対応し、打ち合わせ場所に飛沫を防護するための設備を用意
- ・ 全社員に定期的に民間PCR検査機関によるPCR検査を会社負担で実施
- ・ 検査キットを完備し、疑いのある者に検査を実施し対応

新型コロナウイルス感染症が疑われる場合や感染症患者と接触した心当たりのある場合は、
受診・相談センター
017-765-5280
までご連絡ください。



心と体のケア

- ・ コロナにより従業員の心理的ストレスが増えているため、心のケアを目的としたカウンセリングや研修等の専門家による施策を実施したい
- ・ コロナ禍で社員の気分も落ち込みがちであるため、勤務時間内にリフレッシュタイム(眼・肩・腰の痛み軽減タイム)を作りたい

★運動の取組については、4ページ(肥満・糖尿病対策)に掲載！

